

平成 30 年度第 2 回島田市子ども・子育て会議 会議録

日時：平成 31 年 2 月 26 日（火）午前 10 時～11 時 40 分

場所：島田市会議棟 C 会議室

1 開会

【事務局】

皆様こんにちは。定刻になりましたので、平成 30 年度第 2 回島田市子ども・子育て会議を開催させていただきます。

まず始めに、配布した資料の確認をお願いします。

【配布資料】

- ・次第
- ・島田市子ども・子育てに関するアンケート調査【結果報告書】

結果報告書については会議でのみ配布とさせていただきます。本日、会議終了後に回収いたしますのでテーブルに置いたままをお願いいたします。

本日の会議は、子ども子育て会議条例の第 6 条 2 項に基づき、出席予定委員の 15 名に対して 10 名、過半数のご出席をいただいておりますので当会議は成立していただきますことをご報告させていただきます。

それでは、永田委員長からごあいさつをよろしくをお願いします。

【永田委員長】

皆様おはようございます。春になってとても過ごしやすくなったはずなのですが、花粉がひどくなってマスクをされている方もいらっしゃいます。私も同じなので、体調管理をしながらこの時期を過ごして頂きたいと思います。

分厚いアンケート調査結果がありますが、見て頂くとわかるように色々なものが入っています。乳幼児期の子どもから小学校、学童期の子どもまで幅広くあり、それを次の施策に繋げるようにしていきたいと思っています。皆さまにこの調査を見て頂いて色々なご意見をいただきたいのでよろしくをお願いします。

【事務局】

ありがとうございました。それでは、次第2「審議案件」、3「報告案件」の議事の進行は永田委員長をお願いします。

2 審議案件

島田市子ども・子育てに関するアンケート調査報告書について

【事務局】

子育て応援課の林です、よろしく申し上げます。昨年末に行いましたアンケート調査について、今からジャパン総研の伊藤様からご説明をいただき、皆様から意見を伺います。また、それによってできるところは修正させていただいて、最終的に3月中ぐらいまでには完成の形を取らせていただいて、皆様にはその時点で送付させていただきますのでよろしく申し上げます。それではご説明をお願いします。

【ジャパンインターナショナル総合研究所】

●伊藤氏より資料説明

「資料 島田市子ども・子育てに関するアンケート調査報告書について」

【永田委員長】

ありがとうございました。非常に丁寧な説明で、島田市の特徴が出てきたと思います。バラバラになった頭を整理すると、今日の目的としては3つあると思います。一つ目は保育園や幼稚園等の施設についてどのようなものが考えられるか、あるいはここから読み取れるものということです。二つ目は、放課後児童クラブのことについて皆様にも考えていただくこと。そして三つ目は、89ページにあります、施策についてまだ必要なものがあるかについてです。特に、一つ目の保育所や幼稚園等についてですが、その中には病後児保育、病児保育は院内になるので入りませんが、同じような保育の施設や、一時預かり、土日の保育、地域の子育て支援事業などもあると思います。

大きく分けて3つありましたが、ひとつひとつだと時間が足りないと思うので、皆さんそれぞれどれに対してでも良いのでご意見をいただければと思います。

【A委員】

保育園の代表として参加させていただきました。島田市では幼稚園が認定こども園化していますので、この表では「認定こども園」、「幼稚園」、「認可保育園」と3つに分かれています。認定こども園プラス幼稚園”というのが幼稚園の数だと考えると、島田市は歴史的には幼稚園の町だという印象があります。まだまだそういう意味では幼稚園に対する信頼などが本当に強いと改めて客観的に見させていただきました。

働いているお母さん達の気持ちはそれぞれで、アンケートにもあるように、働かないで子育てをしたいという方、短い時間であまり遅くならないように働きたいという方、様々なお気持ちで子育てをしているなということがこれでわかりました。

多様なニーズに応えられる受け皿があるというのが施策の方法かと思いますが、実態を言えば、ここで言うて良いかはわかりませんが「0歳児3人に対して保育士1人」という配置基準の中、朝早くから午前7時ギリギリに0歳児を預けたいというお話があまり多いとドキドキします。先日も新入園児の面接がありましたが、育休明けで0歳児を預ける時など、午前7時に入られる人は、帰りは午後6時以降というパターンが多いので、この”3対1”で夜遅くまで職員が覚悟できるのかと悩みます。ニーズに応えたいという思いと、それが確保できない施設の現状があります。

【永田委員長】

ありがとうございました。保育所はこれから無償化がありますので、色々と考えないといけないと思っているのですが、保育士が足りない。大学で幼稚園教諭を養成していても、そこ以外に行ってしまう学生もいますので、耳が痛いところです。

【B委員】

3歳児になってから働きたいと希望されているお母さん、家族、家庭が多いということですが、これは「3歳になって大きくなったからもういいだろう」という事もあるかもしれませんが、施設が充実さえすればもっと早くから働きたいと思っていらっしゃる方が多いのではと思いました。その辺りの施策や施設が無償化になった時にどうなるのか、大きく変化していきだろろうとこれを見ていて感じました。

【C委員】

放課後の過ごし方についてのアンケート調査を確認しますと、自宅や放課後児童クラブで過ご

すという子どもが多いのですが、実際に私も息子がいますが、年齢に応じてだんだんと自宅に集まる率が高くなっているなととても感じます。地域で週2回、駄菓子屋をやっていますが、最初は低学年が多かったのがだんだんその子達が大きくなり、また小さい子が来て、というのを見てみると、自宅で過ごしながらも地域に遊び場を求めているなど感じています。

慣れてくると宿題を持ってくる子たちがいて、地域のじいじ、ばあば達と一緒にやっているの、そこで塾ができるのでは、という話が出ています。OB、OG 教員などに来ていただいて宿題を見てもらうなど、児童クラブの要素もその地域で担うことができるのではないのでしょうか。また、習い事等も可能であれば、私達は公会堂でやっていますが、その別室に先生を呼んで英語教室を開くなど、そういった利用ができるのではと自治会長とも話しています。公会堂の利用率も微妙ですが、地域の施設を使って児童クラブ兼習い事兼地域の遊び場、自宅に父母がいないおうちが自宅のように使えたり、和室等もありますし、地域の子どもたちを地域の人達がみられるといいねと思いますし、実現可能ではないかと思います。

ただ、そこに関わってくる親御さん達の気持ち的には資格が、とかそういったことも挙げてくると思いますが、そういう所にも地域の人達が絡むことで、不可能ではないのではとすごく感じています。実際私も自宅にいないことが多いので、帰ってくると部屋が大変なことになっていることもあります。自宅を開放できないお宅があれば、その公会堂に自宅として集まってくれる場所があれば、今日はあちらに行っているとわかるとお母さん達も安心するのかなと、いうこともあるので、どのようにやっていくかはわかりませんが、協力できる地域からモデルケースとしてやっていく事もありなのではないかと思います。

【永田委員長】

ありがとうございます。地域の子ども達を、地域の資源を使って、集まれる場所を作る、それが遊びだったり、習い事だったり、地域の人達が知恵を出して集まるということですね。

【A委員】

実際、保育園に通っている子や、他の児童クラブを利用している子ども達は、午後6時半とか7時以降の習い事がすごいです。子どもの睡眠時間が足りない、ゆっくりする時間が足りない。保育園に来て、午前中に眠い子はやっぱり午後9時までサッカーだったとか、体育館にいた、など、案外夜の過ごし方という、ここには見えない子どもの姿があります。それを思うと、島田市で働いている部分をカバーするだけが子どもの施策ではない、という事も問題点として思うので、地域にお任せできる場所があればいいなと思います。

【B委員】

28 ページ、39 ページの「教育・保育事業」にありますファミリー・サポート・センターについては、最初の頃から「いい制度だな、でもあまり利用されていないな」と、ずっと思っていました。”使いたい方”と”やったださる方”の割合はわからないのですが、28 ページではなかなか利用していないな、と読んだ時に感じました。39 ページでは、割合的には少ないのですが”6.6”と数字が出ています。こういうファミサポさんと、今の地域の人たちの活動を組み合わせれば、無償化であればファミサポを使いたいなという方もいらっしゃるのかなと思いました。

それプラス、事業側としては人手不足が深刻なところもあってこういう施策があるのだと思うので、両方を考えた場合に地域の活動、定年を過ぎた方たちの活動がここでもっと充実していくのではと、この年になって自分はまだなかなかそれに関わっていけないですけど、平日頃そのように感じています。

【永田委員長】

ありがとうございました。ファミリー・サポート・センターはつつい見落としがちなのですが、もしかすると利用の仕方は色々あるのかなと思いました。

【D委員】

子ども課がファミリー・サポート・センターの担当課ですので、参考に申し上げます。ファミリー・サポート・センターはこども館の中に事務局を持っていて、市内全域をそこで取り扱っている状況です。実際には会員制になっていて、提供する側、提供される側の両方で現在 450 人が会員になっています。提供される側、お願いしたいという方が 300 人近くいて、提供する側、協力しますよという方が 130 人程なので、やはりお願いされたい方がすごく多いという状況です。実際の活動は昨年では年間 850 件ぐらいで頻度は結構あると思っています。協力者に対して 1 時間 600 円という金額で、相互扶助という形で協力し合ってやっている状況で、やはり使われている方が多いです。できれば我々としては、もっと協力者を増やして、地域の相互扶助みたいな形ができればありがたいと思っています。

【永田委員長】

ありがとうございます。お話の中から、E委員に少し意見をお聞きしたいのですが。

【E 委員】

私は、子育て支援ネットワークの代表でここに来ています。子育て支援サークルを定期的開催して、育休中や子育てに専念したいお母さん達が、子どもを連れて交流して体を動かす場を設けています。その立場から見ると一番気になるのは、70 ページの子育て支援の認知状況や子育て支援関連事業、またその満足度です。最後のまとめで、重要度と満足度をわかりやすくデータ化してくださっていたのを見て、やはり就学児であっても就学前児であっても、親御さんが一番気にするのは子どもの安全や健康なのだと思います。

では、満足度 (89 ページ) を見ますと、満足度はまあまあ高いですが、子育て支援事業の中で、この重要度の高い項目の満足度をもう少し高くできないものかなと考えていました。支援事業といって市でやっているからには、そこの満足度を上げるために具体的にできることをやらないと、勿体ないと思います。

また、これだけ認知度が高くて、支援センターももちろん知っているけれど利用がすごく低かったと最初のデータの所でも思ったので、重要度は高いのに何故なのかと思いました。

【永田委員長】

ありがとうございました。重要度が高いのに満足度が低いということは、やはり優先して具体的に何かしないと、という事ですね。

【F 委員】

66 ページの「子育て支援事業の利用状況」について、利用している方が 23.2% でした。3 歳までは一緒にいようと思っている割には少ないのではと思いました。

私の子どもは双子だったので、一人ではさすがに見られないと思って、いつもどこかやっている所を探しては行って、ひとりを先生にお願いしたり、ふたりをお願いする事もあったぐらいです。先生と良く知りあえて、そこに行けばいつもいるという人もだんだん増えて、横のつながりや社会のコミュニケーションも増えるので、行けば、通えばまた行きたくなるけど、たまに行くちょっと疎外感を感じてしまうこともあるのかなと思いました。もっと利用して欲しいなと思います。

【永田委員長】

それは、一時預かりですか。

【F委員】

一時預かりではなく、地域でやっている「きしゃぽっぽ」や支援センター、第三保育園などで週に1回程度ありました。

毎週何曜日はこちらに行こう、といったリズムもできてきたりして、3歳までの時期を子どもと楽しめて充実できるし、じゃあ私は働いて子どもは幼稚園や保育園に行かせよう、という流れもできて、心の満足度が満たされるかなということも感じました。

【A委員】

67ページ「地域子育て支援事業の利用状況」にある【就学前児童】というのは、保育園、幼稚園に通っている方も入っていますか。この”支援事業を利用していない”という数には、保育園、幼稚園児が入っているということですね。

【ジャパンインターナショナル総合研究所】

はい。67ページの表は、0歳から就学前までの子どもであれば、日中どこに通っているかに限りません。

【永田委員長】

意外と1、2歳で利用していない人が多いということは、やはり保育園や幼稚園、**子**子ども園に行っているということでしょうか。

【F委員】

あと、夏休み等になって上の子が家にいると、下の子と上の子を連れて支援センター等には行けないのです。支援センターは未就園児のための場所だからということで、4歳以上を連れては一緒にいけないという制約がありました。

【永田委員長】

そうした時はどのような施設を利用しましたか。

【F委員】

自然はあるので、公園などで走らせたりしています。それで、新学期に上の子が幼稚園に行くようになるとまた子育て支援センターにいたりしていました。

【G委員】

92 ページ【小学生児童 満足度と重要度の散布図】の表を見て、A の領域にあることが求められている、逆に言うと満足度が得られていないということですので、事業や施策にも参考にしていかななくてはいけないと思いました。学校教育課とも連携を取っていかななくてはいけないと非常に感じます。全く別の組織ではなくて、その各家庭の考えを理解したうえで学校教育課もそれに携わっていくということもやはり大事かなと思います。よく、各課によって縦割の関係を指摘されるのですが、横の繋がりにより一層求められているのかと、そのように勉強させていただきました。

【永田委員長】

確かに繋がっていますから切ることもできないし、両方に足をかけている子どももいますよね、保育園だったり、小学校だったりということもあります。逆に、公園に赤ちゃんを連れて行くときに、置く場所がないとか、オムツ変える場所がないとか、日蔭がないなどがあって、大きい子は走ったり遊べるけれど、小さい子を連れて行く事ができないから、上の子が公園行きたくても連れて行けないという意見もあって、公園の整備というのも赤ちゃん用にしてほしいと思っていますのですが、そういったものも考えていただけるといいかなと思います。児童館は、小さいこと上の子が一緒に行けるのですか。

【事務局】

はい、18 歳まででしたら一緒に行けます。

【永田委員長】

では児童館は赤ちゃんも一緒に行けるということですね。そういう所を充実させるという。

【H委員】

私は労働者の団体枠で来ているものですから専門的な知識がないところもあって恐縮なのですが、68 ページ、69 ページあたりを見た感想です。地域の子育て支援事業、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」という方が多くて、「今利用しているけど今後も利用したい」という方が相対的に少なく、私の感覚とはちょっと違う回答が出たなと感じました。

それは何故なのか、支援事業そのものの魅力等もあるのかもしれないのですが、実は支援事

業を知らないことがあるのかなと感じました。先程の満足度と重要度のお話もありましたが、満足していない中のひとつの要因の中に、知らない、実は知っているようで知らない、という事があるのではないのか、ということに関心があります。

最後 90 ページに、今後の支援施策に向けての満足度と重要度が書かれてありますが、多様なニーズがあって、私達の職場の中にも色々なママさんがいるので、一概にこれをやったらいいというのは言いづらいところはあるのですが、満足度の施策の内容の所に、例えば”家族関係の充実”には括弧の中に具体的に書かれてあるものは既に市で色々とやられている事もあると思います。

既にできていること、それからこれからやろうとしていること、実は色々課題があって実現不可能というか、実現度に壁があるものっていうのはこれから施策を考えるなかで整理をされていかれると思いますけど、その結果の中で知られていないという課題が出てくるのかなと、そんな感想をもちました。

【永田委員長】

ありがとうございます。子育て支援センターをこれ以上利用したいと思わないというのはちょっと辛いなと思いました。これだけ子育て支援センターを投げかけていて、知らないという人がいるかもしれないというのも怖いし、もしかすると内容もニーズ調査したりして変えるというのが必要なのかなと。もうどこ行っても同じだからとってしまうと、もういいか、なんて思ってしまうたり、色々な事情があると思います。

【D委員】

アンケート結果は正直、辛いものがありますが、子育て支援センターは市内に 10 か所あって、民間の保育園が 8 か所、市直営の保育園で 2 か所、それぞれ実施しています。市外から島田市に来た方に対してウェルカムということで色々なイベントを組んで、支援センターを利用してもらいたい、またはそこを起点にして交流をはかって欲しいと企画をしています。あとは、海外の方を集めて、地元の方と交流を図ったり、海外のママの会などもやらせていただいています、これを見る限りだと周知がそこまでされていないのかとちょっと驚いています。

元々、母子手帳を配布するときに一緒に案内をさせていただいて、マイ支援センターを登録してくださいと案内をしています。登録した方は最寄りのセンターに是非遊びに来てね、お母さん達と交流して友達になってね、と案内をしています。来ないお母さんにはお電話してお誘いしているので、少しずつは増えていって欲しいと思っています。

ただ、アンケートの内容が“気持ち”で、増やしたいと思わないとか、そういう話になってく

ると、内容を充実しなければならないというのはこれを見てわかるので、このあたりをもう少ししっかり考えたいと思います。子育て支援センターの目的のひとつにあるのは、地域の中で孤立させない、これがすごく大きくなっていると思っています。交流を図れる楽しい場所、という事にはなるのですが、一部ではお母さん方が子育てしていてどうしても外に出られないような方が増えてきているということも聞いていますので、その方々に対しても支援センターが手を差し伸べるというような形をとればと思っています。堅い言い方ですが、もう少し内容を考えて周知したいと思います。

【永田委員長】

ありがとうございます。

【A委員】

何年か前に、「“包括支援センター”という考え方が島田市でも出てきたな」と、思いました。フィンランドのネウボラの考え方で、地域の中で子育てする拠点になるネウボラおぼさんがいて、その人の所に行けば、赤ちゃんが生まれたけどおっぱい飲まない、寝ない、から始まり、保育園か幼稚園か迷っているけどどうしよう、とか、小学校に行って先生にあんなこと言われちゃった、とか、そのようなことも含めて地域の中でその子を育てる、包括支援センターという考え方が、何年か前に市の会議で出たような気がしました。言葉としては出ていなかったのですが。

【D委員】

包括支援センターは、具体的な施設などの話ではないです。この会議に健康づくり課がないのですが、島田版ネウボラという形で、来年度、今年の4月から、子どもに対して1人ずつ担当の保健師を付ける事をスタートします。ですので、今後お生まれになったお子さんに対しては、保健師がずっと一緒に付き添います、見守ります、という話になっていて、何かあれば訪問もしますし、検診の時にも声をかけるという形で、それぞれの保健師が担当制として受け持つような形をこれから進めるということです。我々、子育て応援課では、保健師さんと連携を組んで、お子さんがどういう状況かという情報をもらいながら、さらに必要なときには我々が支援していく、というような体制が来年度から始まります。

【A委員】

素敵な取り組みですね。保健師さんは、お母さん達にとって結構大きい存在です。

【永田委員長】

最初に出会う人ですからね。

【I 委員】

気になったのは、62、63 ページ、率的には非常に少ないですが、”休日に保育園や幼稚園を利用したい”といった意見が出て来ていて、就業に対する多様性が出て来ていると思いました。逆にこの人達は平日休みが取れているとは思いますが、一般という言葉は悪いですが月曜から金曜まで就業している人たちに対して、土日を挟んで就業する体系の人がやはりみられる。そういった所に対する特別な取り組みをしていないので、土曜保育はしていますが、これから考えて行かないといけないだろうなと思いました。

それに関して、最後の 91、92 ページでは、(5) 保育サービスの充実、(7) 子育てと仕事の両立、(10) 親と子どもの健康の確保、は関連がある項目だと思います。仕事関係、体や精神面の健康、状態の安定性なども含んだ形での保育サービスが求められていることが関係しているのではと思います。そういう事も考えた上で、やはり少数意見だからといって切り捨てるわけにはいかないと強く思います。

それからこれは個人的な感想ですが、(5) (7) (10) は非常に重要度が高く、92 ページでも重要度が高いに入っています。ただ、小学校、就学した方々から見ると、保育の関係、主に幼稚園保育園を指していると思いますが、過去のものを見ると充実していたという形の評価ができるということは、やはり現状に対して満足していないのかなと。91 ページを見ると、ここの重要度はやはり高いのですが、満足度については低い。これは現状なので言いたいことが沢山あるという状況なのだろうなという、これは単純に個人的な意見です。

最後にこの表の中の、(1) 家族関係の充実については、すごく考えさせられるものがあるなと思いました。子どもの年齢が上がってくるにつれて満足度が下がるという事は、その家族の中で接点が減ってくるのだろうか。その部分を少し心配しています。これに対して行政側からの施策展開として、どういう事を考えて行けばいいのかと思ったときに、主に家族の中での事についてどういう状況が原因か等、掘り下げをしないと、非常に難しい問題だなと思いました。たぶん小学生になったりすると、塾や部活、様々なもので時間が取られ、家族の会話の時間などが減ってくる気がします。家族の絆を強めるような方法を検討するとなると、より細部にわたるような調査をしていかないといけないのかなと、ここが気になりました。

【永田委員長】

ありがとうございました。家族関係は変わると思います。子どもも、色々あると思う。そういう所をあけてみて頂けるといいかなと思います。

【J委員】

児童センター、こども館の子育て支援をずっとやってきていますが、児童センターというのは、もう35年ぐらいになりますか、SL公園の所から、本当に母親クラブは長い歴史があります。

地域の子供達のためにずっと児童館を拠点にしてきましたが、色々な子育て支援の関わりが沢山出てきました。結構存在を知っている方がずいぶんいらっちゃって、児童センターには行った事あるという人が半分以上です。長い歴史の中、親子共々ここで育った子ども達が成人して保育士になったり、関わり方もこの20年、30年の間に変わってきました。自分たちの活動の中でも、ベビーマッサージなどずいぶん対象の幅を広くして、どのような内容にしたら支援ができるか等、いつも定例会の時に皆で悩んで話をしています。

幼児クラブに来る人もだんだん少なくなりました。色々な所でたくさん子育て支援をやるようになってきたのはとてもいい事なので、自分たちが地域の親子に対して何ができるかというのはいつも考えています。

先程、C委員がおっしゃった、地域の駄菓子屋さんのようなことをやっているという情報もちゃんと入ってきています。子ども館に車で遠くから行く人もいて、30分は駐車無料ですがそれ以上が有料、その他に無料の駐車場もあります。

退職した高齢者が来て、自分にできる将棋や囲碁、折り紙を教えたりして、それで皆で見守りをする。これからは地域に根差したこういう活動がとても大事で、とてもいい事をやっているのもモデルになるなといつも思っています。ご近所の子どもや、おじいちゃんやおばあちゃんがどこにいて、小さい赤ちゃんが生まれたとか、そして赤ちゃんを連れてくるママもいるし、上の小学校の子も来てくれる、そして楽しみながら地域で子育てを皆で見守りながらやるというのもとても大事だと思います。

今日は色々なお話を聞かせていただいていたためになります。今後の自分の課題としては、もうちょっと児童館の子育て支援を頑張りたいなと思いますけど、若い人達にもアイデアや考えを色々言っただけだと、時代も様々に変化していくものだから、今までこうだったからでは通らないので、色々な人の意見をきちんと聞いて、よりよい活動ができるように頑張りたいと思います。

【永田委員長】

それではこの他にご意見があれば、メール等でいただくということをお願いしたいと思います。

3 報告案件

小規模保育事業所の整備（公募）について

【永田委員長】

それでは報告案件、小規模保育事業所の整備（公募）について、説明をお願いします。

【事務局】

●事務局より説明

「小規模保育事業所の整備（公募）について」

【永田委員長】

ありがとうございました。

4 その他

【事務局】

長くなりましたが、どうもありがとうございました。来年についても、計画策定をやっていく中で皆さんにご協力をお願いするかと思います。今回のアンケート調査ですが、冒頭にご説明しましたように本日は置いてお帰りいただきます。もう少しの見直しがありますので、直した後でまた皆さんに送付させていただきます。

【永田委員長】

ありがとうございました。色々な意見をいただきまして、島田市の、島田市に沿った、色々な施策にしてもらえるといいと思います。

【D委員】

今回の話の5割位でしょうか、私共の課に関係する事もすごく多かったですし、計画を含めて方向性を見出したいと思っています。それこそお話の中にいただいた“地域”ということがすご

く大きいと思っています。もちろん、集いの広場ということで、きしゃぼっぼさんも含めて、色々な支援団体が使われている公会堂、あとはネットワークさんが色々と地域で支えていただいているというのがすごい基盤になっているということで、その辺りは本当に感謝しています。

加えて、公会堂はこれから色々な使い方が企画されています。駄菓子屋はもちろんですが、他の地域でも実はお菓子屋をやりたいところがあります。あとは子ども食堂。直接絡みがないかもしれませんが、子どもの貧困ということも含んで子ども食堂を立ち上げたいというところもいくつか来ています。あとは放課後児童クラブでも待機になった子ども達を公会堂でみるという事業をやったらということで、国からもそんな方向性が見出せばと思っています。地域の中の公会堂はすごく重要なポイントになっていて、これから利活用ができるのではないかなと思っていますので、それも含めて計画に盛り込みたいので、またご協力をいただければと思います。

【永田委員長】

ありがとうございました。地域資源を使って活用するということが必要ですね。地域資源って、本当はすごく沢山あります。ですから、楽しんで使っていただけるといいなと思います。ちょっと時間が押してしまいましたが、今日は本当にありがとうございました。

以上